

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102347		
法人名	有限会社 シャローム		
事業所名	グループホーム希望の家		
所在地	長崎県西海市西彼町小迎郷1074-3		
自己評価作成日	平成28年5月20日	評価結果確定日	平成28年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&jigyosyoCd=4271102347-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成28年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①「夕暮れ時に輝く人生」を理念とし「入居者が主役、スタッフは脇役」の標語のもと、尊厳をもって介護をしている。
- ②海と山とミカン畑に囲まれた1000坪の広々とした土地にありながら、国道やスーパーにも歩いて行けるので利便性がある。
- ③キリスト教理念で経営しており、納骨堂を完備している。牧師がいるので、希望すればチャペルでの葬儀も可能である。
- ④看護師・介護員が連携しターミナルケアに取り組んでいる。
- ⑤血液サラサラ食である野菜・海藻・イモ類を中心に、朝昼晩ともに1汁3菜に果物を付けた献立を工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は理念を基にしたケアの実践を徹底している。例えば入居者の意思を尊重してターミナルの入居者のトイレ誘導をしたり、朝夕1時間ずつ散歩をしたり、お墓探しから始まるお墓参りに出かけたり、個々の希望に沿うケアを提供していた。また、理念を浸透させる取り組みとして、職員は毎日実施チェック表をつけている。日々の振り返りが理念の実践に繋がる仕組みとして、大変評価できる点であった。更に入居者支援の根幹となるケアプランのチェック表に工夫が施されており、職員は誰でもケア内容の実施をしやすい取組みを行っている。最後に日常的な支援の中で、食事に関しては、新鮮な食材にこだわり、目に鮮やかで体に良いものをふんだんに使用していた。また、排泄援助の一環として、日中は重度者でも全員布の下着を着用させ、可能な限りトイレ誘導していた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで読み物を通して、理念に繋げ唱和している。	職員が入職して一番最初に理念に触れる機会が、3日程時間を費やして実施する社内の新任研修の場で、理念の由来や入居者が主役であること、また、言葉使いの重要性を重点的に教育している。また、理念の共有に関しては、重点事項を職員の目に触れるところに掲示して、毎朝読み合わせをして、日々の入居者支援の実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	犬の散歩や買い物に行く時に、地域の方々と挨拶をしている。また夏祭りには近所の方を招待している。	グループホームを開設して年月が経過していることや、近隣住民との日常的な関わりの積み重ねにより、周辺から高齢者の居住地であることの認識は十分に得られている。入居者の重度化に伴い、外部との関わりは思うようにいかないこともあるが、夏祭りの際に地域の住民を招待したりして、交流の場を作る工夫をしていた。	入居者が重度化することと並行して、外へ出る機会が減少していくことはやむを得ない事情と思われるが、逆に近隣の保育園、幼稚園、学校、ボランティア団体等に声かけし、今以上にグループホームに慰問してもらうことで、地域との関わりの継続を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加している地域代表者に、認知症の人の理解や支援方法を話している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回会議を行い、参加者から意見を頂いている	会議の場では、よく意見の出る雰囲気であるとのことであった。会議の際には、現状の報告を行った後、意見交換を行っている。この中で、身体機能の低下のために、浴槽につかることが困難なケースの話になった。結果、ハード面の検討につながり、高額ではあったが、ユニットに特殊浴槽を導入して、職員の負担も抑えた上で、入居者がゆっくりお湯につかることができるようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では市役所職員も参加され情報交換を行っている。空き情報もお知らせしている。	日常的な連絡等については、事業所の事務員が窓口になって対応しており、市の担当職員とも円滑に報告・連絡・相談を図ることができている。また、介護保険外の内容でも、地域の社協からバスを借りて外出したりする等、必要に応じた部署と関わりを持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないが、言葉づかいに意識を持ち朝の唱和にもそれを加えている。	職員が入職して、最初に身体拘束をしない支援を知り得る機会は、入職した際の新任研修で、この場で、基礎的な知識から法人としての考え方まで説明を受ける仕組みを確認することができた。また、社外研修にも参加して、新たな知識習得にも努めている。社内での持続的な取り組みとしては、(身体拘束)虐待防止委員会を中心に、目標を設定して、日々自己チェックをしたり、職員同士言葉使いを確認し合ったりして、日常的な取り組みを確認することができた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修に参加している。身体に傷が見つかった場合は原因を追究し対応を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は契約書や重要事項説明書により説明を行い、不安や疑問点を尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、アンケート用紙も用意している。	家族の面会の折に、意識して意見を聞いたりすることはあるが、十中八九、感謝の念であり、意見箱にもほとんど意見は入ってこない。普段の関わりがしっかりしている証でもあるが、入居者や家族が、今よりも一層意見を外部に表せる機会を作ることは課題の一つと言える。	入居者や家族の中には、意見を言いたくても言えない性分であったり、内容によっては言い難いこともあるかもしれない。対策として無記名式のアンケートを年に1回無記名郵送式でやってみると、意見を引き出すきっかけになるかもしれない。さまざまな角度からの意見の集約、そして今以上の意見の反映につながることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングにおいて意見を聞いている。	スタッフミーティングは、月に1回ユニット毎に実施しており、参加者のうち、最上位者は管理者メインであるが、法人代表も参加できる時は参加している。風通しがよいと感じることのできたエピソードとして、車椅子用の体重計の購入や特殊浴槽の導入等、入居者への処遇ばかりではなく、同時に職員の負担軽減につながるような対応も、考慮しているということ、ヒアリングの中から確認することができた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの整備をし、やりがいを持って仕事ができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員によって1年間の法人内外における研修計画を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員は地域のネットワークを作り勉強会に参加し、管理者も地域のグループホームと交流を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階で、その以前に関係者、本人と面接し要望に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入の段階で、施設を訪問していただいたり、管理者が自宅や病院を訪問したりして信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の要望を聞き、その時の支援を見極めた対応に努めている。(例えば、入居月日)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	上から目線の言い方でなく、共同生活をする者としてスタッフも関わりながら掃除や手作業をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪問された時は居室でゆっくりお話ができるように環境設定をしている。また、近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイに行かれていた時の友達や、昔の職場の方など家族以外の面会の支援に努めている。	馴染みの「人」との関わりとしては、日常的な家族との面会や、中には入居者の元同僚が面会に来ることもあるとのことであった。また、馴染みの「場」と関連して、生まれ育った故郷巡りを行い、どこにあるかわからないお墓を、職員が人伝てにようやく探しだして墓参りを実現した。今後も、入居者の馴染みの繋がりを大切にしたい支援をしていく方針であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居前に近所同士だった人は席を近くにしたり弱い人を強い人が助けられるように考慮して孤立させないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩が好きな人買物が好きな人それぞれの要望に沿う様に努めている。	本人の意向や希望は入居時の情報で確認し、日々の支援の中でも意向を尊重し、生活に対して意欲が引き出せるように努めている。散歩を好まれる方には午前午後と出来得る限り同行し、墓参りや買い物等を希望される方にも意向に沿うようにしている。自分の家の畑が気になる方には、施設の家庭菜園で季節の野菜の収穫を手伝ってもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルを確認したり、自宅を訪問したり、家族から情報を伺ったりして、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時ひとりひとりに挨拶をしたり、ケアプランを行ったときに現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変更申請がある時に、一年に一度家族・管理者・担当スタッフ・本人と話合っている。現状に即したケアプランが出来るよう、ミーティングでモニタリングを行っている。	「自分をみて声をかけて欲しい。」等の本人や家族の意見や要望をもとに、職員の気づきを反映したプラン作成に努めている。月に1回スタッフ全員が参加するミーティングにて入居者のモニタリングを行っている。介護計画をケアプランチェック表に落とし込み、課題や目標を毎日確認している。寝たきりの方が座位がとれるようになったりと入居者のエンパワーメントを引き出し、自立支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあれば記録し、報告するようにしている。ケアプランチェック表に気づきを記入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけその時々生まれるニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し買い物や、山菜とりをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度の定期受診を行い、必要に応じてかかりつけ医に受診している。	かかりつけ医も本人や家族の希望を尊重している。月に1度は定期受診を行ない、特変があった場合は家族と連絡を図り、迅速な対応を図っている。ターミナルの入居者へは、往診や訪問看護も行われ、医療面でも安心できる施設となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常がみられたり、変化がある場合は看護師に相談し、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は管理者や看護師が面会に行き、病院関係者から情報を頂き、退院に向け努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事が行けなくなった場合は家族に説明し、病院に入院するか、施設でターミナルケアをするかの選択をして頂き、必要ならばかかりつけ医と相談し、今後の方針を共有し支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に向けて本人の意思を尊重し、自然な形で出来得る支援に取り組んでいる説明を行ない、同意を得ている。看取りに関しても研修を行ない、スタッフ間で情報を共有し、厳かな人生の終焉を支援している。キリスト教の理念にて納骨堂もあり、チャペルでの葬儀も可能となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度消防署から来ていただき、事故発生時の対応について研修を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害対策について年間行事に組み込み、風水害地震等の研修を行っている。	防災委員会を中心に消防訓練を年3回、風水害の訓練を年1回行っている。備蓄品も水、ラーメン、カセットコンロ等を準備している。カーテンも全て防災製品としている。運営推進会議にて訓練を呼び掛けたり、訓練後の報告や課題等を報告している。現在職員の研修会にて地震への対応策を検討しているとのことである。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいに注意し誇りを傷つけないような言葉かけに注意している。排泄誘導時は耳元で声かけをしている。	理念にもある「入居者が主役」を標語とし、入居者を尊重し、人生の先輩であることを心にとめ支援にあたっている。身体拘束委員会が掲げる目標「言葉使いに意識を持つ、耳元で語り掛けましょう。」を毎日スタッフが、各自成し得たかどうかチェック表にて確認している。「～してください。」というような言葉も使わないように周知している。職員の守秘義務の誓約書も入社時に提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を用意して本人が自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の状況により対応を変え、希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時入浴時等の洋服はなるべく本人に決めて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が職員と一緒に食材を切ったり、食器洗い、台拭きなど食事の準備片付けをしている。	生活習慣病を予防する食生活を指針とし、バランスの摂れた食事提供を行っている。ソーセージも肉ではなく、穀類からできており食材へのこだわりが伺える。料理の品数を多くし眼にも鮮やかで、入居者の楽しみとなっている。刻みやペースト状等食事形態も入居者の状態に合わせて提供している。職員も昼食を共にし、団らんのひと時となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量水分量を記録し、変化があれば看護師や医師に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはその人に応じた口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員布パンツを使用し、全ての入居者にトイレでの排泄を実践している。	排泄チェック表にて入居者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導することにより、日中は入居者全員が布パンツを着用している。ターミナルの入居者も本人が希望すればトイレでの排泄を支援している。チェック表には水分の摂取量も記録し水分のインとアウトが顕著となり、受診の際にも記録が役立っている。オムツ使用を減らすことで家族の負担軽減にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防する為に、繊維のある野菜海藻イモ類を主体とした料理をしている。運動もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は施設の都合で日時を決めて行っている。	入浴は週に3回で午前中に2名、午後から2名とゆっくりと入ってもらい、無理のないように行っている。各ユニットにリフト浴が設置され、今まで浴槽まで入れなかった入居者も安心して入浴できるようになっている。入浴を拒否する入居者には、担当を変更したり、時間をおいたり工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は乾燥や冷えがある場合は加湿暖房をし、室内環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品の説明書をファイルし、いつでも読めるようにしている。薬の変更があった場合は様子や体調などに注意し見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びの日々を過ごせるよう本人の希望を把握し、床拭きやテーブル拭き、五目並べやパズル等の遊び、気分転換の散歩などを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば毎日戸外に出かけるよう支援している。美容室や親類の葬式法要の参加は家族の協力で支援している。	できるだけ入居者の意向に添い、外出支援を行っている。敬老会は毎年、近隣のホテルで家族も招いて行っている。お墓参りに行く方や電化製品を買いに行く方、施設で飼っている犬の散歩に毎朝行かれる方等同行し、共に楽しみを共有している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的に所持されている方もあり、使うこともできている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望、本人の意思を優先している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招かないように大きな変化は避けている。四季の草花で共用の間では季節感を取り入れている。	ホールは四方を窓とし、採光が入り明るくなっている。食事時にはクラシック音楽やラジオが流れ心地よいBGMとなっている。マッサージチェアも自由に使用できるようになっている。各ユニットで犬を飼いアニマルセラピーも行っている。ひな祭りにはひな壇を飾ったりと四季折々を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中ではソファや畳の間があるのが好きな場所で過ごされている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意思身体面を優先して、居室を作っている。使い慣れたものは持ってきて良いことになっている。	各居室には、使い慣れた鏡台や仏壇が置かれている。誕生日に家族から送られた花や各居室に置かれた観葉植物の鉢植え、誕生日のお祝い色紙等落ち着いて暮らせる工夫が成されている。居室は整理整頓され掃除も行き届いており、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に安全面を配慮し、車いすや押し車でもスムーズに動くようなスペースを取り、個々に応じた自立性を最優先している。		